

彩の国シェイクスピア講座番外編

『ジュリアス・シーザー』勉強会

2021年2月23日(火)

松岡和子

◎ シェイクスピアの悲劇の時代の幕開け

『ハムレット』第五幕第一場「劇中劇」の直前ハムレットからポローニアスへ
一種の楽屋落ち。

聞くべき言葉を聞かない(信じるべき人・言葉を信じない)という過ちの始まり

◎ Brutus と Cassius の友情・愛情の曲折が主軸(二人の対話 全行数の19%強)

訳してみて痛感

第四幕第三場——喧嘩の場(稽古風景の映像)

◎ 私の好きな台詞 第五幕第一場のラスト

Brutus

And whether we shall meet again, I know not: そして、俺たちがまた会えるかどうか
は分からない。

Therefore our everlasting farewell take: だから永久の別れを交わしておこう。

For ever and for ever farewell, Cassius. 永遠に、永遠にさらばだ、キャシアス。

If we do meet again, why, we shall smile; 再び会えるなら、そう、その時は笑顔だ。

If not, why then this parting was well made. だめなら、そうだな、これでいい別れが
できたことになる。

Cassius

For ever and for ever farewell, Brutus: 永遠に、永遠にさらばだ、ブルータス。

If we do meet again, we'll smile indeed; 再び会えるなら、その時こそ笑顔だ。

If not, 'tis true this parting was well made. だめなら、確かに、これでいい別れが
できたわけだ。

◎ 名台詞、一人歩き

◎ シーザー暗殺後のブルータスとアントニーの演説（第三幕第二場）

市民への呼びかけ

B Romans, countrymen and lovers, hear me for my cause and be silent, that you may
hear.

A Friend., Romans, countrymen, lend me your ears:

I come to bury Caesar, not to praise him.

シェイクスピアが与えた行数はどちらも 34 行。だが B は散文、A は韻文

よって語数は B が多いのだが、どちらがより強く人心を動かしたか！